

## 編集後記

皆様のご協力により『ルーテル学院研究紀要』第56号を発刊できました。

紀要第56号の冒頭には、市川一宏教授と金子和夫教授の寄稿を掲載しました。両教授は長年に亘り本学の教育と研究の発展に尽力されました。2023年3月に専任教員としての歩みを終えるにあたり、これまでの教育と研究の足跡を凝縮して記してくださいました。

続いて、キリスト教関係の論文1本と社会福祉関係の論文4本、キリスト教関係の講演録1本を掲載いたしました。これまで注目されて来なかった重要な課題に光を当てた論文があります。また、COVID-19のような新しい課題に向き合った論考があります。時代の変化に応じながら教育と研究に取り組んでいるルーテル学院大学の働きの一環をお伝えする研究紀要となりました。

本学『研究紀要』は2019年度（第53号）から、印刷による配布を取りやめて、電子媒体で発行しております。これまで冊子で発行した研究紀要もデジタル化して機関リポジトリに掲載しております。『ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校機関リポジトリ』には、下記のURLからアクセスできます。  
<https://luther.repo.nii.ac.jp/index.php>

リポジトリには、『テオロギア・ディアコニア』という誌名で発行されていた第31号（1997年度）から第38号（2004年度）までの論文と、改題後の『ルーテル学院研究紀要』第39号（2005年度）以降の論文を収録しております。1996年以前の『テオロギア・ディアコニア』や『神学雑誌』に遡って、順次リポジトリに登録して参ります。ぜひ、多くの皆様にお読みいただきたいと思えます。

また、「投稿規程」と「投稿票」もウェブサイトから入手していただけます。

<https://www.luther.ac.jp/education/kiyou/>

キリスト教・社会福祉・臨床心理の対話や協働の場として、また研究と教育の良い循環を作る場として、『紀要』が発展して行けますように、これからも暖かいご理解とお力添えをよろしくお願い申し上げます。（加藤純）

2023年3月

紀要編集委員会

加藤 純（委員長）

市川 一宏

福島 喜代子

ジェームス・サック

上村 敏文

石川 与志也